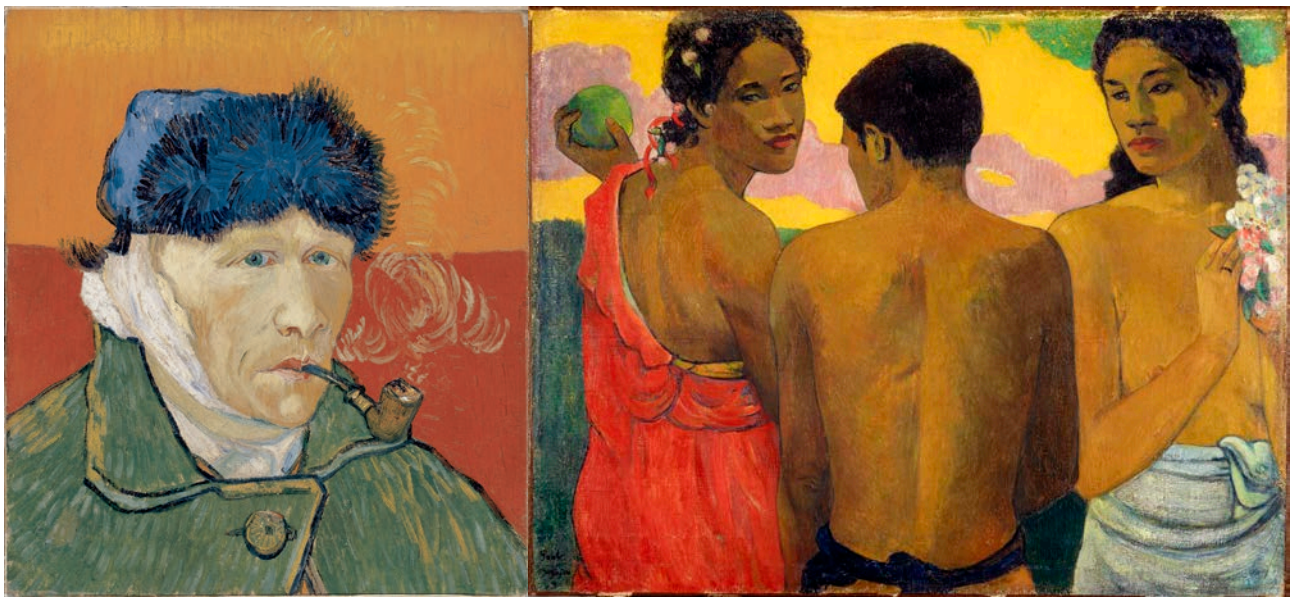


近代美術のアイコン ギュスターヴ・ファイエ ーコレクター、そして創造者

Fondation Louis Vuitton, Paris

2026.10.09 - 2027.03.08



GUSTAVE FAYET, COLLECTIONNEUR - CRÉATEUR. ICÔNES DE L'ART MODERNE

FONDATION LOUIS VUITTON



Henri Matisse, *Place des Lices, Saint-Tropez*, 1904
Huile sur toile, 51,5 x 55 cm. SMK, National Gallery of Denmark. Crédit photographique : © SMK Photo/Jakob Skou-Hansen



Vincent van Gogh, *Le cyprès et l'arbre en fleurs, septembre 1889*
Huile sur toile 52 x 65 cm. Collection particulière. Crédit photographique : © Peter Schälchli



Paul Cézanne, *Le grand pin*, 1887-1889
Huile sur toile, 85,5 x 92,5 cm. Museu de Arte de São Paulo Assis Chateaubriand Doação [Gift] João Chammas, Antonio Adib Chammas e Geremia Lunardelli, 1951, MASP.00089

セルゲイ・シチューキン、ミハイル・モロゾフとイワン・モロゾフの兄弟、そしてサミュエル・コートールドといった偉大なコレクターたちに捧げられた「近代美術のアイコン」展の系譜を継いで、フォンドーションルイ・ヴィトンは、近代美術の歴史をかたちづくった先駆者たちについての探究を続けます。その新たな展覧会は、2026年10月9日から2027年3月8日まで開催される特別展「ギュスターヴ・ファイエ——コレクター、そして創造者」です。

この大規模な企画展は、フォンドーションルイ・ヴィトンの全展示空間を用いた「コレクターとしてのギュスターヴ・ファイエ」と「創造者としてのギュスターヴ・ファイエ」の二部で構成されます。そこに浮かび上がるのは、収集、創造、そして芸術への参与が互いに呼応する、特異な歩みです。本展は、世紀転換期のモダニティを担った重要人物でありながら、今日では不当に忘れられているギュスターヴ・ファイエの肖像を描きだします。

本展は、その規模と内容において前例のない試みです。一方では、今日では世界各地に散在する並外れたコレクションから、250点を超える作品を一世紀ぶりに一堂に集め、他方では、ギュスターヴ・ファイエ自身による創作 325 点を紹介します。その大半はこれまで一般に公開されたことがなく、本展のために修復されました。

本展では、フィンセント・ファン・ゴッホの絵画 10 点、ポール・ゴーギャンの作品 78 点、オディロン・ルドンの作品 88 点からなる一群に光を当てるとともに、エドガー・ドガ、ポール・セザンヌ、アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック、ピエール＝オーギュスト・ルノワール、ベルト・モリゾ、ポール・シニャック、ピエール・ボナール、エドゥアール・ヴュイヤール、アンリ・マティスの絵画やパステルも紹介します。

数年にわたる調査の成果である本展は、国内外の 64 の文化機関と 71 の個人コレクションの協力を得て開催されます。本展は、20 世紀初頭の芸術界における第一級の人物でありながら、次第に忘却の裡へと追いやられていったギュスターヴ・ファ



Pierre Bonnard, *Plaisir de campagne ou Le Jardinier*, 1903
Huile sur toile, 85,7 × 94 cm. Collection particulière.



Paul Gauguin, *Dans les vagues ou Ondine*, 1889
Huile sur tissu, 123,8 x 106 cm. The Cleveland Museum of Art, Gift of Mr. and Mrs. William Powell Jones, 1978.63. Crédit photographique : © Courtesy of Cleveland Museum of Art

あなたのコレクションの一覧を拝見し、私の作品が巨匠たちのそれと肩を並べていることを知りました。私は幸せな気持ちになると同時に、気後れもします[……] 絵画を真に理解し、評価する人がいるのですね。

ポール・ゴーギャン「ギュスターヴ・ファイエ宛書簡」(1902年3月)

イエ (1865–1925) の姿をあらためて浮かび上がらせるものです。ファイエは、多作な創造者であり、疲れを知らぬ非凡な事業家であり、先見の明に恵まれたコレクターでした。さらに、前衛芸術を擁護し、その価値をいち早く見いだすとともに、近代美術が多様なかたちで現れることに積極的に貢献しました。実際、ギュスターヴ・ファイエは、いち早く、ゴッホ作品を収集し、ピカソ作品を展示し、さらにパリ中心部の自邸に約 200 点の作品を擁し、当時の芸術家や著名なコレクターたちがこぞって詰めかけた、いわば「ゴーギャン美術館」ともいふべき空間を築き上げました。また、ルドンの友人であり、その熱烈な愛好家でもあったファイエは、フランス南部フォンフロワドの自ら所有する修道院で、後年まで人目にふれずにいた壁面装飾を手がける機会をルドンに与えました。

ギュスターヴ・ファイエは、版画を除いて 740 点を超える近代美術の重要作品を収集した、並外れたコレクターであるだけではありません。人生の後半には、20 世紀初頭の装飾芸術

にその成功の跡を刻んだ創造者でもありました。画家、水彩画家、陶芸家、装飾家、絨毯・織物・壁紙のデザイナー、そして書籍の挿絵画家として、ファイエは、芸術が生活のあらゆる側面を潤すと考えた世代を体現しています。彼の創作は、当時を代表する画廊や主要なサロンを通じて広まり、ポール・ボワレ、ジャック・ドゥーセ、ジャンヌ・ランバンといった影響力のある人物たちを魅了しました。アール・ヌーヴォーからアール・デコに至るまで、ファイエは、美術と装飾芸術が融合する新たな生活芸術の創出に全面的に関与しました。ギュスターヴ・ファイエにとって、収集することと創造することは、ひとつの同じ衝動のなかで結びついていたのです。

この特異な、そして多くの点で先駆的であった人物に捧げられる初の国際的規模の本展は、豊穡な世界を明らかにするとともに、20 世紀初頭の近代美術と装飾芸術に新たな一章を開きます。この意欲的な企画には、展覧会の二部門にわたって、作品および資料あわせて 740 点が集められます。



Vincent van Gogh, *Autoportrait à l'oreille bandée*, janvier 1889
Huile sur toile, 49,5 x 44,2 cm. Collection particulière.
Crédit photographique : © Peter Schälchli



Paul Gauguin, *Le Christ jaune*, 1889
Huile sur toile, 92,07 x 73,34 cm. Collection Buffalo
AKG Art Museum, General Purchase Funds, 1946.
Crédit photographique : © Tom Loonan and Brenda
Bieger, Buffalo AKG Art Museum



Paul Gauguin, *Portrait de l'artiste au Christ jaune*, 1890
Huile sur toile, 38 x 46 cm. Musée d'Orsay, Paris.
Crédit photographique : © Musée d'Orsay, Dist.
Grand Palais Rmn / Patrice Schmidt

ギュスターヴ・ファイエ—— フォンダシオン ルイ・ヴィトンの 3フロアにわたってコレクションを紹介

フィンセント・ファン・ゴッホ、ポール・ゴーギャン、オディロン・ルドン、
エドガー・ドガ、ポール・セザンヌ、アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック、
ピエール＝オーギュスト・ルノワール、ベルト・モリゾ、ポール・シニャック、
ピエール・ボナール、エドゥアール・ヴエイヤール、アンリ・マティス——
250点を超える作品を展示

フィンセント・ファン・ゴッホ 《包帯をしてパイプをくわえた自画像》

本展の大きな見どころのひとつが、フィンセント・ファン・ゴッホの《包帯をしてパイプをくわえた自画像》のフランス帰還です。同作がフランス国内で展示されるのは1937年以来であり、展覧会への貸し出しも1990年以来初めてとなります。ポール・ゴーギャンとフィンセント・ファン・ゴッホの劇的な決別ののちに描かれたこの胸を打つ作品には、傷を負いながらもなお、絵を描き続けようと決意する芸術家の姿が描かれています。これに呼応するのが、ポール・ゴーギャンの《パレットを持つ自画像》です。こうして、近代の芸術家をめぐる根本的に異なる二つのヴィジョンが、かつてない対話のうちに響き合います。

《黄色いキリスト》《黄色いキリストのある自画像》《緑のキリスト》——ゴーギャンの三つの傑作

《黄色いキリスト》(1889年、バッファロー AKG 美術館)、《黄色いキリストのある自画像》(1890-1891年、パリ、オルセー美術館)、《ブルターニュの磔刑》(1899年、ブリュッセル、ベルギー王立美術館)が一堂に会します。これら三作品は、かつてギュスターヴ・ファイエと、その親しい友人ジョルジュ＝ダニエル・ド・モンFREY、モーリス・ファーブルが所有していた作品です。三点の絵画、ゴーギャンへの情熱によって結ばれ、その情熱を分かち合った南フランスの三人のコレクター、そして三つの自画像が、ひとつの比類ない星座を結び、ゴーギャンの評価の確立においてファイエが果たした決定的な役割を雄弁に物語っています。



Odilon Redon, *Le Jour*, 1910-1911

Détrempe sur toile, 200 x 650 cm. Abbaye de Fontfroide, Narbonne. Œuvre classée au titre des monuments historiques comme un ensemble historique mobilier.
Crédit photographique : © Fondation Louis Vuitton / Nicola Matheus.



Odilon Redon, *La Nuit*, 1910-1911

Détrempe sur toile, 200 x 650 cm. Abbaye de Fontfroide, Narbonne. Œuvre classée au titre des monuments historiques comme un ensemble historique mobilier.
Crédit photographique : © Fondation Louis Vuitton / Nicola Matheus.

《昼》《夜》《沈黙》——オディロン・ルドンによる比類ない装飾画群

展示順路におけるもうひとつの大きな見どころは、オディロン・ルドンがフォンフロワドのシトー会修道院の図書室のために描いた装飾画群です。ファイエは1908年、この修道院を購入し、修復するとともに〈総合芸術作品〉へと変貌させようとしていました。装飾パネルは、現在も同地で大切に保存されています。

ルドンの芸術的遺言ともいうべき《昼》《夜》《沈黙》が、今回初めて一般公開されます。ファイエにとって、象徴主義の画家ルドンの作品とその友情は、暗示的かつ精神的な芸術への道を開き、ファイエ自身の創作を育むものとなりました。



Gustave Fayet, *Les Cyprès bleus*, 1902
Huile sur toile, 98 x 73 cm. Collection particulière /
Private Collection. Crédit photographique :
© Association du Musée d'Art Gustave Fayet.



Gustave Fayet, *Marine*, s. d.
Huile sur toile, 38 x 60,3 cm. Collection particulière /
Private Collection.

創造者 ギュスターヴ・ファイエ——

最上階で明らかにされる豊穡な世界と修復された遺産

今回初めて一堂に集められる豊かな創作群——陶芸作品 55 点、意匠図 19 点、吸取紙に描かれた水彩 90 点、絵画・パステル・グアッシュ 15 点、そして挿絵本 18 点。そのなかには、フレデリック・ミストラルのプロヴァンス語詩『ミレイユ』にもとづいてファイエが制作した 72 点の図版や、遺作となった画帖『花々』も含まれます。

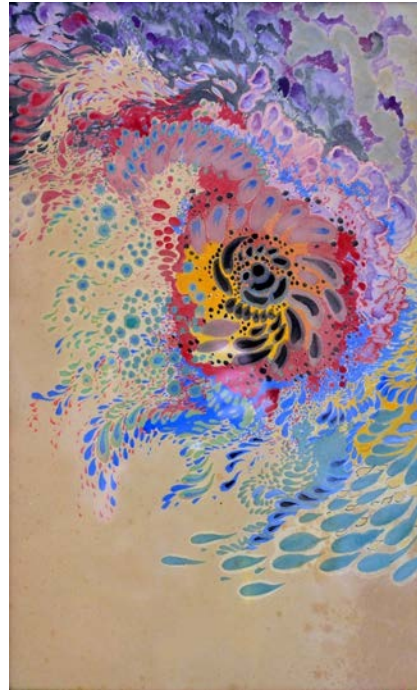
展覧会の第二部では、同じくこれまでにない視点から、芸術家、創造者、そして事業家として多面的に活動し、その変幻自在な作品ゆえに、いかなる定義にも収まりきらないファイエの諸相を探究します。風景画家であったファイエは、アール・ヌーヴォーとアール・デコの多様性のなかに、飽くなき好奇心を育む広大な実験の場を見いだしました。歳月を重ねるにつれて、彼は創造者となり、装飾芸術のあらゆる領域へと身を投じました。陶芸家、装飾家、絨毯、織物、壁紙、挿絵本のデザイナー、さらにはファッション・メゾンの創設者——この溢れんばかりの多彩な活動は、ジャン・コクトーが定義したトゥシャトゥイスムを想起させずにおきません。

長らく人々の目に触れることなく、散逸し、ときに忘れ去られてきたファイエの創作が、本展で初めて一堂に会します。それらは、自由で現代的な創造の活力を示し、色彩、モチーフ、そして創意を同時代の大きな芸術潮流と響き合わせることで、装飾芸術史における、本質的でありながらこれまで十分に知られてこなかった一つの側面を明らかにしています。

19 世紀末の象徴主義の遺産に根ざしながら、ギュスターヴ・ファイエは、メゾン・デラヤアトリエ・ド・ラ・ドフィースにおける芸術活動を通じて、〈狂乱の 20 年代〉のモダン・インテリアの刷新に寄与しました。フォントフロワド修道院のためにリヒャルト・ブルクシュタールヘステンドグラスを依頼したことにおいても、イニー、ラ・ドラゴンヌ、コストブリュヌの各邸宅のために自ら手がけた創作においても、ファイエは、1920 年代の簡潔で幾何学的な美学に繊細な陰影を添える、奇想を好む美意識を育みました。とりわけ彼を特徴づけるのは、類まれな花の造形語彙です。彼はそれを吸取紙の上で即興的に生み出したのち、布地や壁紙、絨毯へと展開しました。



Gustave Fayet, Louis Paul, *Vase*, 1896-1904
Grès émaillé, 71 x 32 cm. Collection particulière.
Photo : © Fondation Louis Vuitton / Nicolas Matheus



Gustave Fayet, *Motif floral*, 1912-1925
Aquarelle sur papier buvard, 42 x 25 cm. Collection particulière.

陶芸作品とルイ・ポールとの協働

1896年、ギユスターヴ・ファイエは、装飾芸術の分野における最初の事業を立ち上げます。ロダンのもとで学んだ画家であり彫刻家のルイ・ポール（1858-1922）とベジエに炆器工房を設立し、1904年までに100点を超える陶芸作品を制作し、1898年6月、これらの作品は、パリのジークフリート・ビングの画廊で展示されるに至りました。

吸取紙に描かれた水彩画

1912年頃、十年近くもの中断を経て、ギユスターヴ・ファイエは再び絵筆を手にします。その頃には、芸術家としての彼は深い変貌を遂げていました。

初期にラングドック地方を描いた風景画に見られた統御された世界に代わって現れたのは、彼が吸取紙に水彩で日々描き出す奇妙な形態であり、抽象との境界にある未分化な世界から立ち現れる花々でした。これらの作品は、やがてファイエ固有の視覚言語となり、その後、壁紙、布地、そして絨毯へと展開されていきます。



Gustave Fayet, *Tapis (détail)*, 1922-1925
Laine Diamètre : 255 cm Mons, Maison Léon Losseau (Belgique)



Gustave Fayet, *Mise en carte G54*, 1920-1925
Aquarelle sur papier, 302 x 289 cm. Collection particulière. Photo : © Fondation Louis Vuitton / Nicolas Matheus.

アトリエ・ド・ラ・ドフィーヌのためにデザインされた絨毯

1920年、ファイエは、自らの〈吸取紙〉のモチーフを絨毯へと展開することを目的として、アトリエ・ド・ラ・ドフィーヌをパリで創設します。幾何学性を一切排した植物文様の絨毯はたちまち成功を収め、ジャンヌ・ランヴァン、ジャック・ドゥーセ、レオン・ロソーらがこれを注文しました。絵画として構想されたそれらの絨毯は、サロン・ドートンヌ、パヴィヨン・ド・マルサン（ルーヴル美術館）、さらには1925年のパリ国際装飾美術・産業美術博覧会に出品されます。

大規模な修復——絨毯、原寸図案、ドレス

本展の開催にあわせて、フォンダシオン ルイ・ヴィトンは大規模な修復事業を実施しました。その対象には、アール・ヌーヴォーの傑作であるベルギー・モンスのメゾン・レオン・ロソーのために制作された絨毯や、一連の製織図が含まれています。これらの図面は、ファイエの注目すべき制作活動の一端を明らかにするものです。また、ポール・ボワレ、ジャック・ドゥーセ、ジャンヌ・ランヴァンとの関係から着想された約10点のドレスも特定され、修復されました。

「ギユスターヴ・ファイエ——コレクター、そして創造者」展を通じて、フォンダシオン ルイ・ヴィトンは、近代美術と装飾芸術の歴史における忘れられた大陸を明らかにします。それは、生涯を通じての友人、アンドレ・シュアレスによる「彼はあらゆることを芸術として成し遂げた」という言葉に導かれていたかのような、一人の人間が築き上げた魅惑的な世界でもあります。

もはや幾何学的な線でもなければ、対称性でもなく、
同じ花束繰り返すことでもない[...]
必要なのは奇想である。
私たちの作品にどれほど奇想を盛り込んでも、
なお十分ということはない。

ギュスターヴ・ファイエ『絨毯について』（1924年）

キュレーション、展示デザイン、刊行物、 関連プログラム

19世紀末から20世紀初頭の美術を専門とし、国際的にも高く評価される文化遺産総括保存官のシルヴィ・パトリが、本展の総合キュレーションを務めるとともに、ギュスターヴ・ファイエのコレクションを扱う図録の編集を統括します。フォンダシオン ルイ・ヴィトンの学芸員であるアンジェリーヌ・シェルフは、創造者としてのファイエに焦点を当てた展示セクションのキュレーションと、その図録の編集を担当します。

すべての展示空間を28のセクションに分け、760余点の作品と資料とで構成される、規格外ともいえるべき世界を演出するためにフォンダシオン ルイ・ヴィトンは、ロバート・カーセンを招き、感覚に訴えかけるイマーシブな展示デザインを構想しました。彼は、空間構成、色彩、雰囲気の巧みな組み合わせによって、ギュスターヴ・ファイエが生きた多様な世界——その住まい、生活の場、コレクション、そして創作——を甦らせます。展示は、それぞれが独自の性格を持ちながらも一連の空間として展開され、コレクター、パトロン、創造者、

企業家というファイエの多面的な姿をたどり、そのまなざしに貫かれた内的な一貫性を明らかにします。それぞれの展示空間は、再現性の高さよりも、その世界観を喚起することを重視し、ファイエの世界がもつ豊かさと多様性を余すところなく伝えます。

ガリマール社との共同刊行による二冊の書籍では、コレクター、そして創造者としてのギュスターヴ・ファイエの多面的な姿を探究しました。また、一般公開されるデータベースには、現在までに確認されているギュスターヴ・ファイエのコレクション約740点の作品と約100点の版画が収録され、その豊かさと多様性を物語るものとなります。さらに、この意欲的な研究プロジェクトは、国際シンポジウムの開催によって発展を続けます。また、本展では、ファイエと同時代の作曲家たちとの結びつきを想起させる音楽プログラムもあわせて実施されます。

近代美術のアイコン ギュスターヴ・ファイエー コレクター、そして創造者

フォンドシオン ルイ・ヴィトン
2026.10.09 - 2027.03.08

キュレーター

シルヴィ・パトリ：ゲスト・チーフキュレーター
ユリア・コクルキナ、ミシェル・キーファー：ゲスト・チーフキュレーター補佐

アンジュリーヌ・シェルフ：フォンドシオン ルイ・ヴィトン アソシエイト・キュレーター
コルデリア・ド・ブロス、シャルロット・ランジュ：アソシエイト・キュレーター補佐

展示デザイン

ロバート・カーセン：展覧会アーティスティック・ディレクター

協力

Association Musée d' Art Gustave Fayet Fontfroide

特別支援

Musée d' Orsay

特別参加

Bibliothèque nationale de France

<https://presse.fondationlouisvuitton.fr/gustave-fayet-en/>

表紙 L: **Vincent van Gogh, *Autoportrait à l'oreille bandée*, janvier 1889.**
Huile sur toile, 49,5 x 44,2 cm. Collection particulière.
Crédit photographique : © Peter Schälchli

R: **Paul Gauguin, *Trois Tahitiens*, 1899**
Huile sur toile, 73 x 94 cm, National Galleries of Scotland
Crédit photographique : © National Galleries of Scotland, Dist. Grand Palais Rmn
/ Scottish National Gallery Photographic Department

FONDATION LOUIS VUITTON

FONDATION LOUIS VUITTON

Bernard Arnault *President, Administrator*

Jean-Paul Claverie *Advisor to the President*

Suzanne Pagé *Artistic Director*

Sophie Durrleman *Executive Director*

Press contacts

Fondation Louis Vuitton

Sébastien Bizet *Director of Communication*

Caroline Cadinot *Press and Public Relations Officer*

Joonam Partners

Roya Nasser: + 33 (0)6 20 26 33 28

Pierre-Edouard Moutin : +33 (0)6 26 35 51 57

fondationlouisvuitton@joonampartners.com

For JP press

afumi inc.

佐藤ビンゴ : Bingo Sato

info@afumi.co.jp

03-6451-1568